

くお元気でしようか



東鷹同窓会会長 生龍 蘇安 (昭和三十三年卒)

「東鷹くかけはし」第3号の発刊にあたり、「お元気でしようか」と挨拶を申し上げます。

昨年十一月九日、《再会くよみがえれ青春》をテーマに、第38期定期総会と懇親会が盛会裡に開催されました。総会・懇親会の成功に向けて、当番幹事学年役員・幹事の皆さんのご奮闘とご尽力、同窓会役員のご活動に心よりお礼とねぎらいのごとばを贈りたいと思います。

私は、はからずも同窓会会長という大役をいただき、微力ながら本会の組織的な運営の確立に努めているところです。特に、新田事務局長を中心とした事務局各位の、日常的、献身的な取り組みには、大いに感謝しているところです。

同窓会全体の活性化は当然のことながら日常的な課題となっておりますが、昨年の総会において新しく決定しましたのは、全国に散在して活躍されている同窓生各位と絆を強くし、「かけはし」を構築するために、関東・関西・北九州・福岡各支

部の範囲を各都道府県・地域区分で明確化することでした。これを受けての、各支部・地域会員の組織的な活動への参加推進は、まだまだこれからの課題でもあります。またまたこれからの課題でもありますが、従来、支部所属が曖昧になっていた各地の同窓生から、早くも賛同のお便りも届いているやに伺っています。例えば、関東支部の事務局担当の方に、北海道から心暖まるお便りと支部会費が送られてきたことを、先日の関東支部総会の席でお聞きしました。これも、会員との《かけはし》がまた一つ掛けられた証左と言えます。

同窓会とは、ある意味では不思議な組織だと思えます。日頃は意識していませんが、会の呼びかけで、同窓会意識と連帯意識がさらに呼び覚まされて、繋がっていく。これぞ同窓の絆以外の何物でもなく、また金銭では贖うことはできない、貴重な無限の財産であるかと考えております。

さて、私は、去る五月二十四日、関東支部発足四十周年記念の支部総会に出席いたしました。東京在住の恩師 城戸厚先生の臨席を得て、総勢七十余名が、楽しくも賑やかな一時を過ごすことができました。四十年前を振り返りますと、関東支部を発起した先輩方は、当時三十歳代の半ばでした。その発起の中心の方々は今年七十四歳〜七十五歳になられます。関東支部は、発足以来、関東地区の方々の大切な心の拠り所として、また助け合いや励まし合いの場として、大切に継承、

発展してきたのです。今日まで、ふるさと田川を遠く離れて、関東各地で逞しく活動されてきた各位に深甚の敬意と感謝の意を表します。

最近読みましたある報告によりますと、日本の平均寿命が五十歳を超えたのは昭和二十二年だそうです。その後、高度経済成長期の中で、人口革命とも言える急激な変化がみられます。六十五歳以上の人口が全体の七%になる高齢化社会は昭和四十五年、そして十四%に達して高齢社会を迎えたのが平成六年です。この間わずか二十四年です。これは、世界でも全く類を見ない短期間の劇的な社会変化と言えます。今日では、これに伴う様々な高齢社会と山積する諸課題は、私たちの周囲に洪水のように渦巻いております。

この人口革命は、関東や関西などの大都市圏の同窓会組織の構成と活動に大きく反映しています。かつてのように、大量の若者たちが、大都市圏の労働力構成層として、ふるさとから集住していた時代は過ぎました。したがって、一方では活動の中核を担った各位が、高齢化していき、逆に継承を期待する若い後輩世代自体が少数になっていくわけです。その上、我々もそうでしたが、若年の頃は、同窓会意識よりも、目前の仕事や生活にかまけて、同窓の連帯まで意識が届かない人が多数となります。また、住居の変更も激しく、移動の度の連絡がままならない現実も重なります。本部の役員構成や活動にも、学年幹事

の構成や活動などに上記の事情が反映しているふしも感じられます。各支部の活動には、さらにより多大な影響が生じていると言えます。各支部の役員各位には、このことで、「ご苦労が多く、活動の案内などの作業がまるで徒労に感じられることが多々あるのではと推察し、そのご苦労に対してお詫びと感謝を重ねて申し上げます。

母校の東鷹高校の在校生諸君は、地域では、信頼される高校生として、例えばボランティア活動、清掃活動等にも励んでおります。私の耳に、地域の住民の方々から、東鷹高校の生徒の善行の噂が入ってきますと、我が事のようにうれしくなるものです。遠方におられる同窓生各位になりかわって、地元にあります私たちは、毎日の生活の中で、母校の生徒諸君の日常の諸々の活動を見守っております。

今後とも、組織的にも個人的にも、お互いに連携を密に図りながら支え合って、同窓会本来の意義を持続させたいものです。そのために、なにはともあれお互いに、まず健康に留意して、明日への活力を蓄えつつ、「今が一番若い！」と自らを叱咤して、元気に楽しく過ごしたいものです。同窓生各位の今後ますますお元氣なご活躍を祈念して、私の挨拶といたします。